

送金・入金額が誤っていたときの適切な対処法とは

実務上、誤った額を送金・入金することはあっても、実際にはしばしば起こるものです。そこで、起きてしまった場合の手続き、仕訳の方法などを解説します。



モロトメジョー税理士事務所
税理士
諸留 誕

誤った額を送金・入金してしまうことは、会社の事業活動において起き得るものです。

もちろん、そういった誤りが起きないようには、各社・各人が努めることは言うまでもありません。とはいえ、実際に起きてしまった場合にはどうすればよいのか。その手続きや仕訳、経理処理の考え方などを確認しておきましょう。

誤って入金されたとき

まずは、誤って入金された場面から確認していきます。

ケース1 全額返金する

誤って入金されたお金（以下、「誤入金」と呼びます）を、のち

に全額返金するケースです。取引先、あるいは、心当たりのない相手から、間違えて振り込まれたようなケースが該当します。

対応1 誤入金があったとき

預金通帳を確認すると、A社から10万円の誤入金がありました。

この場合の仕訳は、**図表1-A**のとおりです。

対応2 返金したとき

A社からの入金が誤りであることを確認してから、全額を返金する場合には、2つの対応が考えられます。

1 銀行から「組戻」の手続きによって返金する

「組戻」とは、間違えて口座に入金された場合に、振込金額の返却を先方から「銀行」に依頼してもらう手続きのことです。この場合には銀行への手数料は必要ありません。

この場合の仕訳は、**図表1-B**のとおりです

2 こちらから直接返金する

直接返金する場合の仕訳は、**図表1-C**のとおりです。

ポイントは、振込手数料です。相手が間違えて振込をしたのですから、返金する際の振込手数料は「相手負担」とするのが通常です。

よう。その場合、相手に返金する金額は、「誤入金のお金－振込手数料（＝設例では9万9,670円）」となります。

ケース2 入金の一部を返金する

誤入金があった場合に、そのうちの一部を返金するケースです。売上先が誤って、実際の売上代金よりも多く振り込んでしまったようなケースが該当します。

対応1 誤入金があったとき

預金通帳を確認すると、B社から売上代金（売掛金）として10万円の入金がありました。そのうちの9万円が誤入金であることが判明しました。

この場合の仕訳は、**図表2-A**のとおりです。

対応2 返金したとき

B社からの入金が誤りであることを確認して、その一部を返金する場合、相手が間違えて振込をしたのですから、返金する際の振込手数料は「相手負担」とするのが通常です。

この場合の仕訳は、**図表2-B**のとおりです。相手に返金する金額は、「誤入金のお金－振込手数料（＝設例では8万9,670円）」となります。

ケース1 全額返金する

図表1-A 誤入金があったとき

借方		貸方		摘要欄
普通預金	100,000	仮受金	100,000	A社からの誤入金

図表1-B 組戻手続きにより返金したとき

借方		貸方		摘要欄
仮受金	100,000	普通預金	100,000	A社からの誤入金を返金

図表1-C 直接返金したとき

借方		貸方		摘要欄
仮受金	99,670	普通預金	99,670	A社からの誤入金を返金
仮受金	330	普通預金	330	上記の振込手数料

ケース2 入金の一部を返金する

図表2-A 誤入金があったとき

借方		貸方		摘要欄
普通預金	10,000	売掛金	10,000	B社からの売掛金入金
普通預金	90,000	仮受金	90,000	B社からの誤入金

図表2-B 返金したとき

借方		貸方		摘要欄
仮受金	89,670	普通預金	89,670	B社からの誤入金を返金
仮受金	330	普通預金	330	上記の振込手数料

ケース3 次の支払いに充当する

図表3-A 誤入金があったとき

借方		貸方		摘要欄
普通預金	100,000	売掛金	100,000	C社からの売掛金入金
普通預金	10,000	預り金	10,000	C社からの誤入金

図表3-B 次の支払いに充当したとき

借方		貸方		摘要欄
普通預金	210,000	売掛金	210,000	C社からの売掛金入金
預り金	10,000	売掛金	10,000	C社からの誤入金を充当

ケース4 追加で支払いを受ける

図表4-A 誤入金があったとき

借方		貸方		摘要欄
普通預金	100,000	売掛金	100,000	D社からの売掛金入金

ケース3 次の支払いに充当する

誤入金があった場合に、その金額を預かっておき、次の支払いの際に充当するケースです。

売上先が誤って、売上代金より多くの金額を振り込んでしまったようなケースが該当します。

対応1 誤入金があったとき

預金通帳を確認したところ、C社から売上代金（売掛金）として11万円の入金がありましたが、そのうちの1万円が誤入金であることが判明しました。

この場合の仕訳は、図表3-Aのとおりです。

に返金するおカネであったことから、勘定科目を「仮受金」としていました。

これに対して、本ケースでは「返金せずに預かる」ことにしたために、勘定科目を「預り金」としています。

なお、「仮受金」としても間違いはありませんが、その状態のまま決算日を迎えた場合、決算書に「仮受金」の勘定科目が残ってしまいます。確定した数字を掲載すべき決算書に、「仮」の数字が残ってしまうのは、経理の「機能不全」を疑われる可能性もありますので、本ケースでは「預り金」

をおすすめします。

対応2 次の支払いに充当したとき

後日、C社に対して新たに22万円の売上が発生し、以前の誤入金1万円を充当した差額である21万円が振り込まれました。

この場合の仕訳は、図表3-Bのとおりです。

ケース4 追加で支払いを受ける

誤入金があった場合に、その金額が本来の入金額よりも少なかったために、追加の支払いを必要とするケースです。売上先が誤って、実際の売上代金よりも少なく

振り込んでしまったようなケースが該当します。

対応1 誤入金があったとき

預金通帳を確認したところ、D社からの売上代金（売掛金）として10万円の入金がありましたが、1万円の入金不足があることが判明しました。

この場合の仕訳は、図表4-Aのとおりです。

なお、入金不足については、「素早い催促」が重要になります。逆に、催促が遅くなると、催促もしづらくなるものです。また、支払いをしてもらえない可能性も高まります。

図表4-B 不足額の支払いを受けたとき

借方		貸方		摘要欄
普通預金	10,000	売掛金	10,000	D社からの売掛金の残額入金

ケース5 全額返金される

図表5-A 誤送金したとき

借方		貸方		摘要欄
仮払金	100,000	普通預金	100,000	E社への誤送金

図表5-B 組戻による返金を依頼して受けたとき

借方		貸方		摘要欄
普通預金	100,000	仮払金	100,000	E社への誤送金の返金
支払手数料	880	普通預金	880	組戻手数料

図表5-C 直接返金を依頼して受けたとき

借方		貸方		摘要欄
普通預金	99,670	仮払金	99,670	E社への誤送金の返金
支払手数料	330	仮払金	330	上記の振込手数料

ケース6 一部を返金される

図表6-A 誤送金したとき

借方		貸方		摘要欄
買掛金	10,000	普通預金	10,000	F社への買掛金の支払い
仮払金	90,000	普通預金	90,000	F社への誤送金

また、振込先の了承が得られない場合には、返却を受けられないことがあったり、了承を得られても返却までに時間がかかることもあります。企業としての信頼が損なわれる可能性もあるので、振込先の間違いには十分気をつけなければいけません。組戻による対応

ケース6 一部を返金される
誤送金した場合に、そのうちの一部が返金されるケースです。誤って、仕入先に対して実際の仕入代金よりも多くの金額を振り込んでしまったケースなどが該当します。

対応1 誤送金したとき
預金通帳を確認したところ、F社に対する仕入代金（買掛金）として10万円の送金がありました。そのうちの9万円が誤送金であることが判明しました。この場合の仕訳は、図表6-Aのとおりです。

入金不足に早い対応ができるように、入金内容は「即確認」をルールにしましょう。

対応2 不足額の支払いを受けたとき
入金不足の1万円について、後日、D社から振り込まれました。この場合の仕訳は、図表4-Bのとおりです。

＊ ＊ ＊
以上が、誤って入金されたときの対応と仕訳になります。「仮受金」や「預り金」は、最終的（返金や充当が完了したとき）には、「金額がゼロになる」ことを確認しましょう。

誤って送金したとき
続いて、誤って送金をしてしまった場面を確認していきます。つまり、「本来の送金額」とは異なる金額を、自社が送金してしまったときです。

ケース5 全額返金される
誤って送金したお金（以下、「誤送金」と呼びます）を、のちに全額返金されるケースです。取引先、あるいは、心当たりのない相手に、間違えて振り込んでしま

ったケースが該当します。

対応1 誤送金したとき
預金通帳を確認したところ、E社宛てに10万円の誤送金がありました。この場合の仕訳は、図表5-Aのとおりです。

対応2 返金されたとき
E社への送金が誤りであることを確認して、全額を返金してもらう場合には、2つの対応が考えられます。

① 銀行への「組戻」の手続きによつて返金を受ける
返金を受ける場合、銀行に組戻の手続きを依頼すると、通常は手数料の支払いが必要になります。

この場合の仕訳は、図表5-Bのとおりです。

② 直接依頼して返金を受ける
直接返金を依頼する場合のポイントは、振込手数料です。自社が間違えて振込をしたので、返金される際の振込手数料は「自社負担」とするのが通常でしょう。

その場合、相手から返金される金額は、「誤送金の金額－振込手数料（＝設例では9万9,670円）」となります。

この場合の仕訳は、図表5-Cのとおりです。

図表6-B 返金されたとき

借方		貸方		摘要欄
普通預金	89,670	仮払金	89,670	F社への誤送金の返金
支払手数料	330	仮払金	330	上記の振込手数料

ケース7 次の支払いに充当される

図表7-A 誤送金したとき

借方		貸方		摘要欄
買掛金	100,000	普通預金	100,000	G社への買掛金の支払い
預け金	10,000	普通預金	10,000	G社への誤送金

図表7-B 次の支払いに充当されたとき

借方		貸方		摘要欄
買掛金	210,000	普通預金	210,000	G社への買掛金の支払い
買掛金	10,000	預け金	10,000	G社への買掛金に誤送金を充当

ケース8 追加で支払う

図表8-A 誤送金したとき

借方		貸方		摘要欄
買掛金	100,000	普通預金	100,000	H社への買掛金の支払い

図表8-B 不足額の支払いをしたとき

借方		貸方		摘要欄
買掛金	10,000	普通預金	10,000	H社への買掛金の残額支払い

対応2 返金されたとき

F社への誤送金が返金された場合、そもそも自社が間違えて振込をしたのですから、返金される際の振込手数料は「自社負担」とするのが通常でしょう。

このときの仕訳は、図表6-Bのとおりです。

相手から返金される金額は、「誤送金の金額－振込手数料（＝設例では8万9、670円）」となります。

ケース7 次の支払いに充当される

誤送金した場合に、その金額を預けておき、次の支払いに充当し

てもらおうケースです。仕入先に對して誤って、実際の仕入代金よりも多く振り込んでしまったようなケースが該当します。

対応1 誤送金したとき

預金通帳を確認したところ、G社に対する仕入代金（買掛金）として11万円の送金がありました。そのうちの1万円が誤送金であることが判明しました。

この場合の仕訳は、図表7-Aのとおりです。

ケース2までの誤送金は、すぐに返金されるおカネであったことから、勘定科目を「仮払金」としていました。これに対して、本ケ

ースでは「返金されずに預ける」ことにしたため、勘定科目を「預け金」としています。

なお、「仮払金」とするのも間違いではありませんが、前述の「仮受金」と同じで、その状態のまま決算日を迎えた場合、決算書に「仮払金」が残ってしまいます。本ケースでは「預け金」をおすすめします。

対応2 次の支払いに充当されたとき

後日、G社に対して新たに22万円の仕入が発生し、以前の誤送金1万円を充当した差額の21万円を振り込みました。

この場合の仕訳は、図表7-Bのとおりです。

ケース8 追加で支払う

誤送金した場合に、その金額が本来の送金額よりも少なかったために、追加の支払いを必要とするケースです。誤って、仕入先に対して実際の仕入代金よりも少

なく振り込んでしまったようなケースが該当します。

対応1 誤送金したとき

預金通帳を確認したところ、H社に対する仕入代金（買掛金）として10万円の送金をしていましたが、1万円の支払不足額がありました。

この場合の仕訳は、図表8-Aのとおりです。

対応2 不足額の支払いをしたとき

支払不足の1万円について、後日振込みをしました。

この場合の仕訳は、図表8-Bのとおりです。

なお、支払不足にあたっては、「素早い支払い」が重要です。逆に支払いが遅くなってしまうと、相手からは「金銭にルーズな会社」と見られて、その後の取引に悪影響が及ぶ可能性があります。経理のスピード化を図って、ミスに早く気付ける体制をつくりましょう。

以上が、誤って送金したときの対応と仕訳になります。「仮払金」や「預け金」は、最終的（返金や充当が完了したとき）には、「金額がゼロになる」ことを確認しましょう。